

追悼のことば

本日ここに、令和四年度古賀市秋季戦没者追悼式が執り行われるにあたり、古賀市議会を代表し、謹んで追悼のことばを申し上げます。

終戦から七十七年という月日が経過しました。この戦争によって、日本国内においても、多くの尊い命が失われました。あらためて、犠牲になられた方々のご冥福を、心からお祈りいたします。

また、最愛の肉親を失われ、今日までの長きにわたり、鮮明なる記憶と共に、言葉に尽くせぬほどの悲しみに耐えてこられたご遺族の皆様、その心中をお察しするに、軽々に弔慰の言葉をお掛けすることも憚られますが、只々、深く敬意と感謝の意を表すものであります。

先の大戦では、多くの諸外国でも、大勢の犠牲者を出したと併せ、復興までの苦難の歴史を直視する時、すべての国民が、不戦の誓いを胸に刻み、世界の恒久平和の確立に全力を尽くさねばならないと、あらためて思いを強くするところであり、ます。

今日でもなお、世界の主要8か国が保有する核弾頭数は、一万発を超えております。

また、北朝鮮によるミサイル発射実験も続いており、核開発の疑念も払しょくできておりません。

中国に目を向ければ、尖閣諸島周辺の領海侵入や、台湾統一の思惑が見え隠れする挑発行為などは、アジア諸国の友好と平和の確立に、暗雲をもたらしており、予断を許さない状況であります。

東日本大震災、福島第一原発事故からの復旧・復興も、いまだ道半ばであります。私たちは、あの悲惨な原発事故を教訓とし、新たなエネルギー政策の実現に向けて確かな一歩を踏み出さなければなりません。

さて、古賀市では、昭和六十年に「非核恒久平和都市宣言」を議会でも可決し、平成二十一年には「平和市長会議」にも加盟しています。

市民レベルでも、反戦、平和を考え、後世につなげていくためのさまざまな取組が、息長く続けられています。特に、次代を担う若い世代への伝承の取組は、極めて重要な課題です。

古賀市は本年、市制施行二十五周年を迎えます。戦争のない平和な社会を希求する多くの人々の願いを忘れず、地域経済の発展と住民福祉の向上を図っていくことが、戦争で犠牲になられた方々に忘える、私たちに課せられた責務であると確信しています。

古賀市議会は、未だに収束を見ない新型コロナウイルス感染症による社会の閉塞感を打破し、必ずや、平和な社会を実現し、全ての市民が、安心して、その人らしく豊かに暮らしていけるようなまちづくりに、全力を尽くして参ることをお誓いします。むすびに、戦没者の御霊の安らかならんことを、そして、ご遺族の皆様方のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げ、追悼のことばといたします。

令和四年九月十五日

古賀市議会 議長 結城 弘明